

2026年

## 風穴れ

人権のたより

通算第88号 2月6日発行

三重県立津東高等学校

時候のあいさつでは、梅の花のつぼみも膨らみはじめ…とはいうものの、まだまだ寒い日が続きます。風邪などひかないように体調管理をしっかりしてがんばりましょう。

## ○ 「憎むな、殺すな、赦しましょう」 ～「正義の味方」月光仮面～

1958年（昭和33年）2月、TV番組黎明期のヒーロー番組の一つ、「月光仮面」の放送が開始されました。そして、この番組によって「正義の味方」という日本独自と言ってもよいヒーロー像が誕生しました。（もっとも「正義の味方」という言葉そのものはそれ以前にもありましたが）この番組内で彼、月光仮面は「正義」ではなく、また「正義の執行者」でもなく、力なき人々を守り、助けるために自身の力を使用する、さらに彼は対立する敵にも「憎むな、殺すな、赦しましょう」と、あくまで懲らしめるだけで過剰に傷つけたり、裁くことはしない…そのような立場の謎の人として描かれています。

また、月光仮面のシンボルの「三日月」は原作者である川内康範氏によると月の満ち欠けを人の心になぞらえ、「今は欠けて（不完全）いても、やがて満ちる（完全体）ことを願う」という理想、「月光は善人のみでなく、悪人をも遍（あまね）く照らす」との意味が込められているそうです。

近年、自己肯定感の涵養（かんよう）、自己評価の向上と言われるようになってきました。しかしこれは、自分だけを肯定し、他者を低く評価して、自分は「正しく」、自分の価値観のみを信じ、自分の「正義」を他者に強要することではありません。

自分が不完全であることを知り、また相手の不完全なところも受け入れ、共により良くあろうとする。そのような理想が「正義の味方」月光仮面からみえてこないでしょうか。

## ○ 『差別用語』が生まれる瞬間 ～～思い込みとおせっかいの大暴走～～

“味噌煮込みという言葉をご存知ですか？” “味噌煮込み”とは知的障害者に対する差別用語でもあります。ご存知の上で使用されているのでしょうか？”（原文ママ）…これは2001年5月6日、あるコミュニティ系ネット掲示板に突然書き込まれた文章です。これを書きこんだ人物は「とある施設」ではたらいでいて、そこでは知的障がい者を指す言葉として「味噌煮込み」が使われている。だから「味噌煮込み」は差別用語のはず。それなのにその言葉を堂々と使っているのは不愉快だ、おかしいという主張のもとに、この行動を行っています。そしてこの人の行動によって、当時この掲示板では現在、「炎上」と呼ばれるような現象が発生しました。

当時はSNSも現在ほど発達していなかったため、この事件はあまり多くの人の目に触れることもなく収束し、幸いにも「味噌煮込み」が新たな「差別用語」として定着することはありませんでした。さて、この事件、みなさんはどのように思われるでしょうか。

もちろん「味噌煮込み」は「差別用語」ではありません。けれども「少数でも不快感を覚える人がいるならその言葉を使うべきではない」と言い出す人はいます。ただ、それは、逆に意見や表現を封殺し、新たな差別を生み出してしまうことだとも思いませんか。